

会 議 録 (案)

1 名 称	平成27年度第2回北九州市子ども・子育て会議
2 議 題	「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」の点検・評価について
3 開催日時	平成27年11月19日（木）15：00～16：52
4 開催場所	AIMビル3階 315会議室 （小倉北区浅野三丁目8-1）
5 出席した者の 氏名	出席委員（15名）（◎…会長、○…副会長）（敬称略・50音順） 安藤 由起子 遠藤 禎幸 大久保 大助 北野 久美 黒木 八恵子 権頭 喜美恵 白土 友恵 新庄 希代子 ◎田中 信利 田中 眞弓 中村 雄美子 錦戸 千晶 濱村 千鶴子 村上 順滋 ○村上 太郎
6 議事の概要	次ページのとおり
7 発言内容	次ページのとおり
8 その他	傍聴者なし
9 問い合わせ先	子ども家庭局 総務企画課 企画係 （担当）立石、村上 電話番号 093-582-2280

会 議 録 (案)

6 議事の概要

- ・「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」の点検・評価について、資料1～4に基づき事務局より説明した。

7 発言内容

発言者	内 容
	【開会】15:00 ○ 会議成立の報告
会長	【議事】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」の点検・評価について</div> <p>今年度から始まった第2次プランは、平成27年度から31年度の5か年である。5か年プランで、毎年評価をしていくという手続きとなる。評価をしていくときに、毎年、ころころ評価が変わるのではまずいので、5か年は一貫した同じ物差しによる評価に基づいて実施していくということが基本的にある。</p> <p>先ほど事務局から、今年度7月の第1回会議の時に、この評価のあり方についていろいろ意見が出たということだが実は今回だけでなく、かなり前の段階からこの評価に関しては、この委員会の中で評価の妥当性についていろいろな議論も出ていた。しかし、今、言ったように、5か年はずっとそこで評価をいじることができないので、その評価に関して、事務局でA評価に付けていても、B評価ではないのかということが出たが、その時点で、では来年度から評価を変えるということは実際できない。そういう現状があった。</p> <p>具体的には、先ほどあったが、アウトプットとアウトカムのその兼ね合いから、総合評価もどういうふうな兼ね合いでやっているのかというのがはっきりしないと、そういういろいろな意見はあった。繰り返しになるが、少なくとも、前の第1次の「元気発進！子どもプラン」の5か年に関しては、同じ物差しでつないでいくという姿勢である。</p> <p>そういったことを踏まえ、今回このタイミングで、すなわち第2次プランが出来上がって、まさにこの平成27年度からスタートしたので、このタイミングで評価の手続きとか基準を見直して、きちんとしたフレームを作成する。そういったことに取り組んだということである。</p> <p>いろいろ変更等あるが、例えば、説明があった基準で、「大変順調」「順調」「やや遅れ」「遅れ」、この4段階表記に関しても、これまでは担当事業課の主観的判断によって、それを付けていた、今回かなり厳密に数値化して、何ポイント以上何ポイント未満という形で数値化して、基準を設定している。</p> <p>それから、先ほど言ったアウトプットとアウトカム、自己評価と客観的評価から総合的評価を最終的に決めていくその際に関しても、これまでは明確な基準がなかったが、今回は資料1にあるように、マトリックスで自己評価と客観的評価の組み合わせによって、自己評価が95%以上で、かつ客観評価で前年度</p>

会 議 録 (案)

委員	<p>に比べ上位・概ね目標を達成しているという時のみに限って「A」ということとなる。かなりこういう形で、言ってみれば評価の透明性を担保する意味で、評価基準を明確に設けているというところである。そういうことで、かなり評価の仕方を明確にしたということである。</p> <p>こういった背景には、子ども家庭局の、言ってみれば覚悟が表れているというふうに酌んでいいのではないかと思う。というのは、数値でありごまかしが利かないので、時には責められるところは仕方ないというくらい、それ相応の覚悟でこのフレームを作られたと。そういう形のように、その姿勢を買いたい。</p> <p>委員の方々には、これが5年間続くので、当然毎年、この委員会で、この評価に対して事務局が作成した、各担当課ができた結果を集約したものを、事務局がこの委員会に出すので、当然、ここの委員の方々、これがいったいどういう評価方法なのか続くので、きちんと理解しておかないといけない。まず、初年度スタートなので、今回は1つの議題でというのは、このことを委員の方々、十分理解していないと、今年度、毎年評価のときも同じことでもつまずくと言うか、疑問が残るので、まずは、今回の会議の大きな目的は、委員の方々が、これをしっかりと十分理解して消化して納得してもらおう。そのために、一つの議題とさせてもらった。</p> <p>何せ今回は初めての取組みなので、理解を深めると言うか、委員の方々もいきなりという意味で、少し理解がしにくいところがあると思うので、しばしここで時間を、5分か10分程度とって、委員の方々、お隣同士で意見交換をしながら、それでまた改めて、ここの会議で意見とか質問とか、そういうところを出してもらいたいと思うので、いったんここで小休止ではないですが、お互いに意見交換をしてもらいたい。</p> <p>自分でもう1回、先ほどの事務局の説明をかみ砕くというか、こころ辺、分からなかったなということ素朴なところでいいと思うので、確認し合ってもらいたい。</p> <p style="text-align: center;">(各自意見交換)</p> <p>印象として、誰のための評価なのかなという感じがした。もちろん、事業をされている職員の方々ための、次の目標の設定であると思うが、これが市民の一人一人が見て、果たしてどこまで理解できるのだろうか。今受けた説明でも、なかなか理解するのも難しい。誰のための評価で、それが市民のためでもあるのだったら、もう少し分かりやすいように表現できないのかなというのが、1番の意見である。</p> <p>それと、この中で担当事業の自己評価のところの目標設定値の理由が曖昧ではないかと思う。この事業は何の目的でやっていて、その目的を達成するためにこの目標があるというところを明確にしていかないと、ますます市民の人たちは、これをやっているけれども何の意味があるのだろうかと思うし、前回の会議でもあったと思うのだが、数字は出ているけれど、これって意味がないとい</p>
----	---

会 議 録 (案)

委員	<p>う意見が出てもおかしくないのではないかなと思う。</p> <p>改善の欄があるが、この改善の欄が自己評価のところにあるので、客観的評価からの改善策は明記しないということなのか、というのもすごく疑問である。</p> <p>私も、まず、今回見直しはよかったと思っている。いろいろな点で改善の提案があり、嬉しいなと思っているが、そもそものところで、「事業の評価は、プラン事業の実績について、事業担当課が、自己評価するもの」かと。すみません。</p> <p>何のために、本当にこのプランの評価をするのかというのは、プランは何のためにやっているのか、子どもたちが健やかに育つため、子どもを取り囲む状況とか環境にどういうふうに変化があったのか。また、子どもたちを育てる養育者、親であったり、おじいちゃん、おばあちゃんであったり、いろいろな施設の先生方であったり、そういった方たちにどう変化があったのかということの評価するためだと思う。変化があったかどうかを評価するもの。</p> <p>事業は、この子どもを取り囲む状況とか、子どもの状況がどういう状況なので、この課題を改善するためのプランである。だから、その子どもたちがどうなるのかで評価をしないと、全く意味がないなと思う。</p> <p>だから、事業評価の仕方について、今回説明をしてもらったが、その前に1段階必要なのではないかと。北九州市として、子どもの課題はこういうふうを考えている。そのために、プランをこういうふうに行っていく。そして、その事業は、こういうふうなプランを立てたけれども、実際にこういうふうな事業を展開していく。そして、評価はこういうふうに行うという一連の流れが、もう1段階前に必要なのではないかと、まず思った。</p>
事務局	<p>誰のための評価なのかということところは、もちろん、そういうことだろうと思う。したがって、あくまでイメージというので出しているが、実際、評価をするときには、これはそもそも何の目的でやるのかという、そういった注釈というか、そういった説明は、もちろん入れなければいけないとは考えている。</p> <p>それと、改善のところ、自己評価の改善のところがあって、施策の評価のところでの改善はないのかというご質問だったと思うが、あくまで事業をしていく中で、やはりPDCAというときに、自らやった事業をどういったものがあったのかという振り返り、見直しをするということで、自己評価で、改善というところを入れている。</p> <p>それと、施策評価だが、先ほど委員の話と重なるが、ここでの評価というのが、何がどう変わったのかということところにあたる。市民アンケートの対象を少し拡大することで、(各事業について)かなり知っている人、知らない人の母数が広がる。多分、いろいろな方々がアンケートの対象になってくるのだろうと思う。そういった方々に、「それ(施策・事業)が認知されているか」とか、</p>

会 議 録 (案)

事務局	<p>「改善したという意識を持っているのか」という、いろいろな意見を聞き、それらを踏まえて総合評価にもっていきたいと考えている。</p> <p>確かに、いろいろな評価の仕方というはあると思うが、我々で考えたのは、とにかく分かりやすく……分かりやすくなっていないかもしれないが、なるべく分かりやすく、機械的に、恣意的なものが入らないように評価をやりたいということで、いろいろな意見はあろうかと思うが、まずは、こういったやり方で一つ案をまとめさせてもらったところである。</p> <p>私ども、フィールドとしては行政になるが、資料3に非常にたくさんの施策、施策の下にたくさん事業がある。もともと子どもプランというものには、そうした施策と事業がたくさんあり、私どもの予算を付けて、毎年実行しているということである。一部の行政の人間が、例えば施策を1年間振り返ってみて、良かった、悪かったと感覚的にやって、勝手に予算を強めたり、削減したりというようなことも、今までのやり方であれば、施策であるとか事業に対してすることが可能であったわけである。</p> <p>そこが少し、評価ということを取り入れることで、分かりにくいというご意見はあるが、資料1の裏面にあるマトリックス、これがもう全てなのだが、このマトリックスによって自己評価＋客観評価をリンクさせて「A」「B」「C」と非常に分かりやすい判断をしているということになっている。この判断をするのに、私どもの裁量の余地というのはほとんどなくなってくる。行政の中で、こんなことをやりたいから、こんなことやりたくないからやめるというようなことが入り込みにくい形にしているのが、このマトリックス、業務評価になろうかと思う。</p> <p>したがって、この結果で「A」になるのは、今回非常に少なくなったわけだが、「A」という施策、事業が出てくれば、私どもはそれを見て、財政サイドに対して強めると。予算を強めるとか、やり方を改革するとかいうことを、毎年毎年やるわけである。逆に、「D」という評価になったときは、この事業、施策の必要性というものに非常に黄色信号がともっていくと。ものすごくこの事業、行政マンは好きなのだけど、「D」が付いたので予算を削らなければいけないと。あるいは、無駄があるのであれば廃止しなければいけない。</p> <p>こういったことを、私たちは「PDCAを回す」という表現をしていますけれども、客観的にやれるように、この評価というものを、ぜひ取り入れていきたいと。ひとつ物差しを入れるという。行政マンに任せないという、物差しを入れるというのが、多分この評価の意義だろうと思っているので、どうぞご理解いただきたい。</p>
委員	<p>今の話を聞いて感じたことは、私たちはそれほど行政の方を信用していないということでは全然ないということと、裁量の余地がなくなるということとは、逆に言うと、投資的な事業に予算を持っていけないということもあるなど。</p>

会 議 録 (案)

事務局	<p>子ども・子育てというところは、未来の投資だと私は思っている。したがって、数的評価が端的に出ないものも必ずあると思う。私たちは、そこをある種、信じてやっているということもあって、だから、なかなか儲からないところもあるのだが、逆にそこを強めてしまうと、2つ課題がある。</p> <p>1つは、投資的な事業に、担当者の方がとても勉強して、今、これが課題だが、絶対やりたいと思っても、C評価だったらやれない。それは絶対駄目だと思う。私たちNPOでも、担当者の方が動かない限り、なかなか突破できないところがあるので、そこは行政と協力してやりたいと。あくまで、評価は低いかもしれないけれども、未来のためにやりたいという、その余地は絶対残していただきたい。</p> <p>もう1つは、先ほどの委員と委員の話とかぶるが、A評価になるために活動指標のハードルを下げるということあるのかなと。前、かなりしつこく申し上げたのですけれども、前回の資料で言いたいの、施設の改修工事のために、評価指標が入場者数、利用者数…、全然評価指標が合っていない。別に、施設を改修したと報告すればいいだ。それは、担当の方がきちんと確認して、もし駄目だったら工事の業者にきちんとしてもらって、それで全然いいと思う。そこら辺は信用しているので、それ(評価)は飛ばしてもらっていい。何か不必要なところに、こういう労力を払っていることこそ、私は間違いかなと思う。</p> <p>なので、活動指標をやはり事業と合わせる。あとは、成果指標を市民感覚に合わせる。その2つがうまく合うことで、成果指標という総合的な評価になるのかなと思う。たとえ数値が上がってなくても、市民感覚としてはよくやっていただいているということは、必ずたくさんある。そこは、難しい評価と思うが、そこは子どもの活動だと、量を増やすことと質を高めることというのがあると思う。量のほうばかりいくと、今度は質がおろそかになるということもあるので、評価指標というのは非常に難しいと思うが、その兼ね合いだと思う。</p> <p>どちらかという、評価の一般論を申し上げたが、もうほぼ、これまでとして行政の施策、事業というのは、こういう評価というもの、中央のほうは結構なるのですけれども、PDCAと言われたのはごく最近ということもある。したがって、どちらかという感覚に頼る行政が、まだまだ土壌としてある中で、今、この評価を入れていこうというレベルではある。</p> <p>それから、この会議にこういったいろいろなフィールドの委員さんにご就任いただいたのは、まさに、評価の成果指標の良し悪しであるとか、例えば「A」であるけれどもそうではないのではないかという、そういうご意見を頂くための会議だと考えている。評価の一般論と言いますか、評価を導入しようという趣旨はご理解いただきたいと思う。</p>
-----	--

会議録(案)

委員	<p>PDCAをすごく重要視しているようだが、それを取り込むのが初めてとか、新しいことになるのか。</p> <p>PDCAを事業の中に取り入れるというのは、すごく基本的なことだと思うが、行政では、評価方法の中であまり広まっていないのかもしれないが、何か事業を成功させようと思ったら、これはもう基本中の基本だと思う。</p> <p>それで、何が大事なのかという、その前に目的をはっきりさせて、その事業を成功させるために、この目的があるからこの目標値を設定するという考え方でぜひ考えてもらいたいなと、今の話を聞いていて思った。</p> <p>評価方法をPCDAではっきりさせるというのはすごくいいと思うし、基本的なことだが、その目的がずれてしまうと、結局、数字を出せばいいとか形だけになってしまうので、もっと目的を、注釈ではなくてしっかりと明示するくらいする必要があるのではないかなと思う。</p>
会長	<p>PDCAサイクルは、結局、(施策・事業を) 続けることではなくて、改善し、前進していくためのサイクルである。当然、行政の方々もそういうところは念頭に置かれていると思う。</p> <p>先ほど委員が、すべきは、まず課題をきちっと抑えられて、その課題解決に使うためのプランが策定されて、実際、そのための【Do】、事業を行っていく。では、結果はどうなのかということだと思う。</p> <p>当然、それを念頭に置いて、PDCAが回っていくわけだが、議論を聞いて思ったのは、活動指標とか成果指標である。課題があるときに、活動や客観的である成果指標で、本当に課題が解決したのかどうかを判断していいのかということだと思う。そういうところを、また今後、もう一回見直すかが一番大きいところかなと。多分、フレーム自体に関しては、先ほど事務局が言ったように、これからは主観的な判断ではなくて、透明性という観点から見ても客観的に評価するために、やはりこういうデジタル化というのは必要だということで、そういった枠組み自体については、多分委員の方々も、特に異論を挟むことはないと思う。では実際、具体的に事業はうまくいっているかどうかの判断としての活動指標、成果指標に関して、それが最適な指標なのかどうかということに、委員の方々が一番関心を持っているかなと、一言付け加えておきたいと思う。</p>
事務局	<p>まず、PDCAについては、前回のプランから実施しているが、今回、前会議でも皆様方からたくさん意見をいただいたので、より明確に分かりやすくならなかったかもしれないですけども、きちんと筋が通った評価ができるようにということで見直しをさせていただいた。</p> <p>また、委員の話ではないですけども、やはり私ども、一つ一つの事業の濃淡というのが、実はあるのだが、そこまですると、また有耶無耶になってしまうので、今回は小さい事業も大きい事業もベタに計算するようにしている。投</p>

会 議 録 (案)

	<p>資的な事業もその中には当然ある。総合評価というところがあるので、例えば総合評価の部分では、この評価基準で作った場合、言葉を補足し、「C」を「B」に上げるとか、それは委員の意見をいただきながら、取りあえず数的にはこう出たけれども、総合評価の部分で注釈なり修正ということもあり得るのかなという気もしている。</p> <p>それで、目標について、先ほどから意見をかなりいただいているが、これもまた、大変申し訳ないが、今回は新プランの評価方法ではあるが、目標については何が今、背景として問題があるのか、それを改善するためにはどうすればいいのか、そして、主な目標として指標はこれでいいのかというところを、2年間、前委員に議論をしていただいた数字をもとに出している。</p> <p>市民の皆様は、プランを一つずつきちんと読めというわけにはいかないの、そこら辺はどうPRしていけば分かっていたらいいのかという部分は、委員、委員の意見も聞きながら、相談しながら、アンケートが適切にとれるような形で、今後努力していきたいと考えている。</p>
事務局	<p>総合評価について、今の説明の中で、「C」を「B」にするというのがあったが、これはあくまでマトリックスはこのとおりで決めるというのが前提であり、一番大事な部分となる。</p>
委員	<p>こうやって評価をされるのは、本当に大変だったと思う。大変だから、逆にシンプルに考えられないのかなと思った。ただ、会長が言うように、もちろん正当な理由がなければならぬ、透明性が必要、それはとても分かる。</p> <p>評価区分のところでも、「大変順調」「順調」「やや遅れ」「遅れ」という段階になっている。そうすると、一般の人々は、大抵、何でも物事は右肩上がりに、斜め上のほうに助勢で進んでいくと考える。そして、それに対して「順調」というのは右肩上がりにいくこと。「大変順調」はうまくいっている。「順調」はまあまあのところだといっている。「やや遅れ」というのは、低迷しているみたいなイメージなのだが、もしかしたら、ものによったら、ものすごく上がることもあるだろうし、ひょっとしたら、それは「遅れ」というのかといったら、それは言わないと思う。</p> <p>逆に、すごい数字が上がったのだけでも、数字上は順調だけど、本当にそれでいいのかみたいなこともあると思う。ところが注釈の留意点の3番目に、「特別な理由等により、評価基準は満たさないけれども、実際いいということの評価の理由に書いていいと書いてある。例えば、50 くらいだったけれども、いやもう、これすごくうまくいっているということを書いていい。逆に、ものすごく80までいったけれども、少し言葉が悪いが、数字が上がればいいのかというものではないというか、評価の中には必要枠ということもなくてはならない。</p> <p>先ほど事務局は、この会議の中で2年間かけて事業計画の数字を立てたと言ったが、私は何度もその数値は違う違うと言いつけてきた。でも、その数字が</p>

会 議 録 (案)

目標として立ってしまった。それは多すぎる、それは必要ないと言い続けてきた。

だけど、評価として上がってきてしまった。それに対して、それは順調と言われても、いやいや違うということがある。

2つ例を挙げてみる。1つは、透明性ということで入所の基準がポイント制になった。結果、何を生んだか。きょうだいと同じ保育園には入れない、第1希望の保育園には入れないということが生まれた。これは、評価として右肩上がりなので、順調な評価かもしれませんが、実際はどうかということを書き欄がこのままではない。

そして、もう1つ例、小規模保育所を何箇所か建てるという数値目標を立てた。私は必要ないとずっと言い続けた。多分、園に少しずつ保育士を配置すれば、それで済むということをした。今、どんどん(小規模保育所が)建っている。何が起きているか。小規模は開いた。そこに19人丸々いるのか、いない。一般の保育所はどうなっているか、定員割れしている。どうしてか。保育士の取り合いになるから。保育士がいなければ、箱をつくっても数字は賄えないから。だとしたら、この評価ではすごく低くなる。評価としたら、右肩上がりではない。だから、低迷している。でも、低迷でいい、そんな劣悪なところが増えたり、保育士がいなくて誰でもいいみたいな時代になってはいけない、だからそれは低迷していいと思う。数値目標が高すぎたのだから。それは間違っているのだから。だから、低くていいと。というようなことを、例えば、書き欄がどこにあるのかと思ったときに、PDCAと言うが、やはり現場は Do-check で動いている。実践があって、その中で課題を見つけている。

プランという高い目標があって、それにつなげていくのが実践ではなく、子どもたちの現場に入って、実践して、問題が発生したから、これを目標に立てる。どちらかというと、PDCAでいうPの部分ばかり強調されるが、申し訳ないが、私は、子育ての部分はDOが問題だと思っているし、さらに言えば、委員や委員のように改善をどこに持っていくかということが問題になってくるのではないかなと思う。

これを整理すると、この評価区分の「順調」とか「遅れ」とか、遅れたら絶対取り戻さないといけない…。でも、違うと思う、止まってほしい。そしたら、「遅れ」という言葉で表現していいのかという問題が、ここに発生すると思うし、理由のところにも、満たさないけれどいい、だけではなく、満たしているけれどもこれは悪い、満たす必要がない、という評価があってしかるべきではないかというふうに思う。

さらに加えて言うと、アンケートの数値、市民への認知度が高まるように、アンケートの返りが20%とか30%でいいのかみたいなことを、私は確かに言った。だからといって母数を増やしたら数字は上がるのか。そのために、そこでお金をかけて、「いやもう、ごめん。そこにお金をかけるのだったら保育園に頂戴」と、もうここまで言いたくなる。

会 議 録 (案)

事務局	<p>だから、本当にアンケートの返ってくる数字を増やしたいのであれば、委員が言ったように、分かりやすい表現だったら返せるけれども、「もう難しいからいいや」となったり、「きちんと書かなければいけない」とかなったりすると……だから、本当にアンケートの回収率を高くするのだったら、母数を増やす必要があるのか。そこにお金をかける必要はあるのかというようなことを感じた。</p> <p>評価の区分のところ、いろいろご意見をいただいた。いろいろ書いてあったことで見直しをできる部分については、対応をしていきたいとは思っている。ただ、やはり評価の区分で、これもまた、いろいろな意見があるというのはもう十分承知している。いろいろな意見がある中で、やはり一つ基準として評価区分というのを、いろいろな項目があると思うが、とにかく我々としては、事業を見ていく中で、「大変順調」「順調」「やや遅れ」「遅れ」というところの事業の評価でまず評価して、先ほど言われていた、その結果どうなっているのかということ、市民アンケートをとって、まさに市民の方がどう思っているかというのを、総合評価の要素として入れたいということもある。</p> <p>回収率は、確かに増えれば上がるかということもあるが、前プランの回収率をずっと見ると、大体 35～45%を切るくらいの回収率であった。結局 800 人の方にアンケートを出しても、返ってくる数が非常に少ない。それで果たして、市民意見が拾えているのかということもあるんで、まずは母数を広げたいと考えている。これがベストだとは、なかなか言えないが、まずは母数を増やすことで、例えば前回の回収率のままであっても意見を吸い上げる数も増え、市民の方のニーズはこういうふうになっているので、いろいろ事業の見直しなどに反映ができるのではないかと考えている。</p>
委員	<p>言葉を検討するとかはないのか。</p>
事務局	<p>そこは、少し検討を。</p>
委員	<p>「遅れ」ということでの捉えしかないと。</p>
委員	<p>委員が言ったみたいに、例えば、NPOで事業を取り組むとき、どのような評価をしていくかといったら、何かの課題に向かって事業を計画する。</p> <p>事業を計画して、その結果どうなったのかで、例えば、そのことによって子どもたちの状況がこうなった。「A」の評価だと。そうしたら、その事業から撤退となる、かなったから。感覚的に分かりますか。</p> <p>私たちがずっと事業をやっていて、年度末「B」の評価だった。こういうところが足りなかった、こういうことがかなわなかった。では、来年こうしようというって取り組んでいく、その繰り返し。「D」のところを深めていくという</p>

会 議 録 (案)

事務局	<p>ような感覚である。だから、やはり言われたように「大変順調？ 順調って必要？」という、私の中では、とても疑問である。</p> <p>そのこのところの表現も「必要？」とか、何かそういうふうに違う表現に変えてもらうことのほうがいいのではないか。大変順調だったら、本当に子どもたちの育ちに、そのプランが必要なのかという疑問がとても湧いてくる。</p> <p>例えば「D」のものでも強めてもらいたい、強めるべきだというものが必要だと。先ほど、委員、委員からの意見としても。したがって、そこはさらに研究を続けたいと思う。例えば、様式的にそういったD判定について、少しコメントを入れるような話とか、そういう仕組み的に対応できるかどうか、ちょっと今は、イメージがないが、こういった意見をいただいているので、さらに研究は深めたいと思う。</p> <p>「A」だけどストップ、「D」だけど進めようというような研究というのは、少し大きな課題だと思うので、考えていきたい。</p>
委員	<p>では、少なくとも、留意点のところに何か注釈か、もう少し分かりやすい説明が入るとか（できないか）。委員が言ったように、本当に順調であれば必要がなくなるみたいな、それは違うと思う。そのこの評価の区分と留意点のところは、そんなに難しいのか。でも、そうやっていかないと、評価ができないと思う。やはりその部分は早めに検討いただきたい。</p> <p>それから、中間地点で事業計画の目標数値は見直すということだった（と認識しているが）。</p>
委員	<p>これ（計画）は、見直しをするということでもいいのか。</p>
会長	<p>するというふうに確定しているのか、どうなのか。</p>
事務局	<p>支援事業計画は、中間年を目安としている。</p>
委員	<p>（支援事業計画）だけなのか。概ね全般にはないと。だから、5年、5年とということを強調されたということか。であれば、この評価の方法も、もう少し見直さないと、正しい評価にはならない気がする。</p>
委員	<p>今の話を聞いていて思ったのは、やはり投資的なというか、チャレンジする事業であるという明確なところと、5年間で評価がずっと続けていくべき事業と、あとは評価が要らない整備事業とか、そういうのに分けて、投資的な事業は、なぜそれをするのかという理由、それが正しい方向だと、みんなが望んでいる方向だということが明確であれば、やっていいと。そして、目標があって継続して、それが改善方向にいくというものであれば、それが順調にいい</p>

会 議 録 (案)

	<p>るかどうかのチェックが必ず要ると思う。</p> <p>もう1つは、整備事業というのは、現場にお任せし、現場の方を信用する、それはもう民間でも当たり前のことなので、全然チェックしなくていいのではないかと。なぜそういうことを思ったかという、担当者の方が、先ほどの複雑な評価を何ヶ月かけてやるのかと。それをするよりも、我々と話をしてもらったり、次の事業があって熱意を燃やしてもらったり、そちらのほうを私は信用している。これ（評価）で疲れた方に、来年の事業を私たちが考えて、こんなことをしたいと言っても、ちょっと忙しいと言われると、逆に私たちの気持ちが折れてしまう。</p> <p>逆に、私たちは、仕事は減らしていく方向で、もう評価の要るところだけでいいのではないかと。もし、投資的な事業が、PDCAを回す中で良くなっていく方向にすれば、そういう評価軸に移すというような、漠然とした言い方かもしれないが、何かそういう形のほうが、局らしいというか、子どもの活動というか、若者の活動にふさわしいあり方ではないかと思う。</p>
委員	<p>委員のご意見に賛成。事務的なことは、極力少ないほうが私もいいと思う。</p> <p>先ほどのアンケートの話だが、市民の声を聞こうと思ったらアンケートよりも、例えば「さざん」（親子ふれあいルーム）等に、職員が1人行って、そこに来ているお母さんにアンケートを採るほうが一番早いし、確実な意見が採れる。子育て中のお母さんは、紙と向かう時間が本当にないので、職員が1時間出てくれるほうが、アンケートを何百も出して集計するよりも楽なのではないか。そして、本当の声が聞けるのではないかと思う。なので、もっと柔軟に対応できるようにしてはどうか。</p>
会長	<p>今の経過で、前も議論があった。大規模アンケート調査で、本当に声が拾い上げられるのかどうかということで、多分以前の時、何か定点観測ではないが、結局、アンケート調査だと他の自治体と比較ということもあるので、やはりそれはそれで、それをやめるということは難しい。したがって、それプラス、今みたいに、定点観測みたいな形で取り上げていく。だから、原則として外せるところと、外せないところがあって、今日、冒頭の挨拶でも、ずっと話しているが、実態と数値、あるいは実態と評価は必ずしも一致するわけではなく、必ず乖離が生じる。そのときに、その乖離を数値とか評価で改善して解消できるかということ、そうではなくて、少なくとも別のことで対応しなければいけない。</p> <p>それで、事務局が言われたように、少し補足事項的に文言、文章等で補うことによって、その数値と実態に乖離があった場合には、そこで補っていく。そういうことをして、数値は数値として取っていくのは、もう行政の今後の基本的スタンスなので、それは外せない。それで、足りない分とか、少し今言われ</p>

会 議 録 (案)

事務局	<p>た、本当に遅れなのか、必要なのか。あるいは、大変順調なのか、遅れなのかに関しては、検討の内容として少し文言を加えていくというようなところで、行政の方々は考えているということでもいいか。</p> <p>そのとおりである。</p>
委員	<p>例えば、子どもが成長するにつれて、出て来た課題に対する施策についての評価が、その時の評価だけでいいのかという疑問をずっと持っている。特別な支援が必要になった時に、特別な支援が必要な子どもが何人になった。だから、対応できる先生を増やす、施設を増やす。それで、そのことに対する評価でいいのか。そうではなくて、(虐待など) 特別な支援が必要になる子どもたちが、減っていくようにと言ったら表現がおかしいが…。そのために、乳児の親に向けて、こういうこと(事業)を展開していく。したがって、事業の評価だけではそのことが評価できないという事例があると思う、そういう場合、このやり方でどう評価していくつもりなのか。クロスをしていくのかどうかとか、事業を施策だけに区切ってやるのではなくて、この課題を解決するための事業を、この施策ごとではない、別の括りが必要ではないかなと思う。</p>
会長	<p>結局、事業を並列的に扱うのではなく、事業というものを関連付けて、事業が100あった場合に、それが全部同じ評価というか、時間的に同じではなくて、それで時間的ずれもあるだろうし、もう少し事業間の構造を見いだした形での評価というのも必要ではないのかということで、これはかなり難しいと思うが。</p>
事務局	<p>先ほどの意見について、なかなか分かりづらい部分は確かにある。</p> <p>冒頭少し、私から説明した2次計画は施策として14ある。さらに、その施策にぶら下がる、いわゆる事務事業も、例えば施策1に10の事務事業がぶら下がっている。では、例えば施策4では、施策1にぶら下がっている事業が幾つかぶら下がる場合もある。また、施策6なり施策7なり、例えば3つの施策にぶら下がる事務事業というの、当然出てくる。そうなると、それぞれの施策ごとの見る目というのは変わってくるので、そこで多面的な評価ができると理解している。</p>
委員	<p>1つ事業がいろいろな施策に関係があるということではない。</p> <p>例えば、課題として、特別な支援がいる子が増えて何かをやる。でも、その事業だけの評価でいいのかと言っているのだ。</p>
委員	<p>多分、予防的措置とか言ったら、少し語弊があるかもしれないが、その観点での施策というのは評価できないのではということだと思う。</p>

会 議 録 (案)

委員	<p>例えば、前、ある所に話に行った時に、子どもの施策ではないが、DVの相談を開いた。それで、指標は相談者の数だと言われて、増えていかないと駄目だということで、大丈夫。みたいな話となっている。これ（相談者）の数を増やすのに、どうしたらいいかということと言われると、私はその人に「DVするための夫を育成すればいい」と言った…という話。これは全然違う（おかしな）話。だから、数（指標）をそういうふうに設定すると上がっていく。でも、本当は防止ですから逆、事前にそういう（DV予防）講座を開いて、それ（DV）を無くす方向にいくようにする。でも、DVの相談を開いたら、それを無くす方向にすると相談数は下がっていく…。予防的措置というのは、本当に、ではそれをしたから、随分下がったのはそれのおかげだとは言えないのでなかなか難しい。</p> <p>日曜日にドイツで、困難な若者の支援ということを見た中で、予防的視点というのは、この子ども・子育ての中で非常に大きな役割を担っていると思った。社会教育の位置づけになるが、今、これを北九州がやれば、多分先進的になると思う。そういう意味で、予防的な観点とか、どこかで盛り込んでおけば、今はまだなくても、その観点でさまざまな分野に取り組むことができるし、根拠となる。根拠は評価しにくくて難しいと思うが、それは決断次第というところ。</p> <p>委員は、多分、予防的観点という意味で言ったのだと思う。</p> <p>一つ一つの評価だが、もっと大きなくくりで、例えば少子化をストップさせるため、「北九州で子どもが生まれる数が増えている」とか、「北九州に住みたいと思う人が増えて、引っ越して来る若い世代が増えてくる」とか、「子どもを3人目、4人目と産む人が増える」とか、そういうところでも評価を入れていけば、この一つ一つのミクロの視点だけではなくて、大本のこのプランが出来上がった背景の、少子化対策、子どもを増やそう、将来の働き手をもっと増やそうというところの評価として、分かりやすいのではないかと考えた。一つ一つだけではなくて、もっと先のこと、10年後、20年後を見据えての評価を加えたらいいのではないかと、今の話を聞いて思った。</p>
事務局	<p>今の意見だが、明確な答えになっているかどうかというのはあるが、事務事業というのは、当然ながら、先ほど言われた予防的な措置で何か事業を立てないといけないだとか、そういったその時その時の状況に応じて行政側として何か手を打たなければいけない事業というものは出てくる。なので、ここのぶら下がる事業というのは、イメージとしては年度が替われば、事業が増えたりもするし減ったりもする。状況に応じていろいろ起きる。</p> <p>それから、先ほど委員が言った子育て環境についても、いろいろ施策を進めるのに、どういった事業が有効なのかということが当然出てくる。この施策に新たにぶら下がるということになれば、その施策のところ、当然それに関連する事業も新しくぶら下がって、構成する一つの要素となっていく。</p>

会 議 録 (案)

委員	<p>なので、評価の仕方というのはマトリックスの表できっちりとやっていき、(新たに)出てくる事業というのは、例えばその年度、年度の状況とか、時代背景とか、そういったことに応じながら、我々行政側は臨機応変に事務事業を見直したり、新しい事業を立てたりしていくことになる。</p> <p>私の所は高齢者事業なので、そもそもが子どもと接するということがなかったが、最近では違っている。高齢者について地域包括ケアということで、システムの構築推進という形で国が進めているが、これは認知症高齢者の部分だけではなく、町に住む住民全てが、高齢者や認知症の方のことをもっともっと考えて、支えていこうというシステムだと私は思っている。そういったまちづくりというのは、子育て支援にも、十分通じるというか、共通するものだと思っている。そもそも市がどういうことを目標に…(しているのか)。私は、子どもは絶対に地域のみならず、ともに子育てをしていくという、まちづくりをすることが、一番の長期的目標ではないかと思っている。ですから、この事業そのものが全て、どちらかというとも市がやる。それで住民は受ける側。もうその構図が出来上がってしまっている内容が多いと思う。</p> <p>これに対して、目標が数字であるという部分は、私もとても疑問な気がするし、この数字自体は、町の人たちが一緒に考え、自発的な活動としてこの事業自体が行われるようになれば、利用する方が減るとか、減っていることは良い結果であるということも、もちろんあるわけだと思う。もっともっと、これを地域住民の人の目標の一つとして、意識とか認識を変えていくようなことも大切ではないかなと思うとともに、今後、高齢者の方のボランティアとか、生涯現役で居場所づくりとか、活動していってもらおうとか、そういう部分があるので、もっとこういう子育て支援の中で、そういった力を、共にしていくようなことはできないかなと思った。</p> <p>そして、この計画が14の施策があり、これだけたくさんのことを行っていることがわかり、改めてすごいなと思った。けれども、他の委員からもあったように、本当にこれは必要なのだろうかとか、もっと違ったやり方があるのではないかとか、いろいろ内容を見ながら思った。と共に、知らないものも結構あり、一般市民の方にアンケートをとる以上、もっともっと知ってもらう、広報する、発信するということも必要なのではないかなと思った。</p>
会長	<p>長期目標、長期的な視点から、まちづくりや子どもの施策をやってほしいという、実は、行政は長期目標というのは苦手なのである。大学でも中期目標、中期計画で5年間、6年間というスパンの中で移り変わっていくので。苦手と言って申し訳ないがそれは、中期目標という観点から、というふうな考え方でやっているのだから、逆に言ったら、長期目標とかになると、まさに市民とか、そういうまた別のレベルで、何かこうシンポジウムとかそういった形で提供していったら、それを具体化していくということが必要ではないかと。</p>

会 議 録 (案)

事務局	<p>行政だけで、長期目標ということは、多分、あまりやりなれていないのではないかと。すみません。全く根拠のない言い方をしたが、その辺のところはどうなのか。</p> <p>少し一般的な話になるが、この子どもプランも5年計画である。北九州市が何をするというおおもとの計画（北九州市基本計画）というのがある。これも基本5年である。他にいろいろな部局でいろいろな事業計画を持っているが、会長が言われるように、概ね5年サイクルである。一応、5年みて、5年たてば時代の情勢も変わってくるので、見直しをして、また新しい計画を作って走っていくというやり方で、ある意味、5年で一つぐるぐる回して行って、施策を展開していくというのが、一般的な行政が今やっているやり方になっている。</p>
会長	<p>だから恐らく、行政は5年単位だけでも、ここにおられる委員というのは5年で終わるわけではなく、10年、20年その世界で…ということで、やはりその辺の感覚というのが、温度差というのがあるのではないかという感じが個人的にした。だけど、やはりなかなか、行政の中期計画、中期目標というスタンスというのは、結局、変えようがないので、そういうところでの長期目標というのを視野に置きながら、この5年はどうやっていくかという、それもスタンスではないかと思う。</p>
事務局	<p>この施策は、ご承知のとおり、子どもプランに基づく施策、事務事業である。先ほど権頭委員からあった点については、理念として、「地域社会で支えあう」ということを掲げているわけだが、確かにこの施策とか事務事業を見て地域包括ケア的な施策はあるのか。私どもは入れているつもりだが、もしかすると、これまでの評価の説明の中で、やはり欠けている点だったのかなとも思う。そこは評価、これもPDCAでさせてもらいたいと思っていが、先ほど来のいろいろな意見があるところを、ぜひ、評価の最終段階のチェックのところ、色濃く意見を入れさせもらい、チェックとかアクションとか分かりにくいでしょうが、（評価を）次年度の事務事業に活かしていきたいと思っているので、ぜひ、改善を、しっかり委員の意見を聞いて、きちんとこのPDCAの中に入れていきたい、取り入れていきたいと思っている。</p>
委員	<p>市民アンケートの結果に基づく客観的な評価は、今までもアンケートの枚数とか希望とかについては意見があったと思うが、どうしても親の視点からのアンケートになるというのが、ちょっと思っている。ぜひ、子どもの視点をどこかに取り込めたら、とっても先進的な北九州市になるのではないかと思う。</p> <p>そのやり方を、どうやってやるか頭をひねる時は、一緒に考えるので、ぜひ、子どもに意見を聞いてほしい。当事者の子どもの声を反映できる評価になる</p>

会 議 録 (案)

委員	<p>と、とってもいいなと思う。</p> <p>それから、アンケート調査というのが王道の評価だというか、やり方だが、一方では、グループインタビューという手法もあって、出向いて行って、同じ属性の人たち、例えば、未就学児を持っているママたちの所に行ってグループインタビューをして、それを、きちんと文字を起こして評価をするという手法がある。検討いただきたい。</p> <p>今の委員の補足だが、放課後児童クラブの満足度が数値では減少傾向にあるということが出ていた。それを踏まえ、現場としては日々精進している。</p> <p>今、国の法律で定められた支援員の資格を取り始めている。この年になって、90分の4コマ、しかも4日間受けている。腰は痛くなるし、お尻は痛くなるしという状態で、さらに10分間でレポートを書けということで、私たちも大変な思いをしている。支援員の資格講習を受けて、大変荷が重たいと同時に、しっかりと子ども一人一人、うちの学童は102人いるのですが、102通りの対応をしないといけないと痛感している。</p> <p>アンケートなので、全然学童とは関係ない方の意見も入っていると思う。委員が言ったように、できれば学童クラブの子どもたちのアンケートでもいいので、そういったことを、一斉にアンケートをする前に、事前にやるというのでもいいのではと、お願いしたい。</p> <p>それと、5年前に大学生がうちに来ていたが、彼女は「学童クラブの満足度」ということで卒論を書いていた。うちの学童クラブの子どもと親、そのほか地域の学童クラブを4軒ほど、アンケート調査を行い、それを回収して彼女なりに分析をして、卒論を書いていた。</p> <p>学童クラブによっては、さまざまな結果が出ていたが、うちの学童クラブにとっては、子どもたちが大変喜んで活動していると。何か意見を書くところがあったら、結構子どもたちは汚い字でたくさん書いていた。その時、私たちも（アンケートを）大事にさせていただいたので、ぜひ、可能性があるのならば、現場の声として、子どもの満足度も図ってもらいたい。</p>
会長	<p>今のお2人の発言というのは、この会議の中で、第2次計画策定の時に、子どもの視点というのをいかに取り入れていくかということ、かなり協調されたと思う。それが実際、子どもの視点が、どこまで結果として本当にアウトカムとして取り入れられているのかというのは、まさに、子どものことは子どもに聞かないと分からないということ。繰り返しになるが、従来の大規模調査もやるけれども、そういった別の形での結果というものをすくい上げるように考えてもらいたい。</p>
事務局	<p>市民アンケートについては、1次プランからの継続性というがあるので、その部分は変えられないところはあるが、今、ご提案いただいた放課後児童</p>

会 議 録 (案)

委員	<p>クラブ……固定するわけではないが、例えば5年間、同じ場所で継続してアンケートを採っていくというのがやはり大事だと思う。そういった協力頂ける所があれば、いろいろご相談させてもらい取り入れていきたいと考えている。</p> <p>先ほどからアンケートと言っていて、アンケート集計を見て、母子・父子福祉センターというのがあがるが、それを知っているかというアンケートの回収率が2名で、その2名が知っていると答えて 100%と書いてあった。それは、少し違うのではないかなということ、こちらの頂いている資料3の 11 ページも、父子家庭のところの全体指標は平成 23 年度が 91.8%となっているが、実際に、本当にこれが正しいのかなということ、数値が違う形で、2人が知っていると答えれば 100%となるのは、回収率の関係だが、少しアンケートとしておかしいのではないかとすごく感じている。</p>
委員	<p>確か、昨年度の評価がそうだった。</p>
委員	<p>100%のはずはない。ほとんど知らないはずなのに、どうしてこんな数値が上がるのかというのを、すごく疑問に思っている。アンケートの採り方を、もう少し考えてもらいたい。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおり。その点も改善したいし、先ほど委員も、子どもの立場でと、グループアンケートと、少し教えていただきたいと思う。ぜひ、勉強させてもらいたい。取り入れてみたいと思う。</p>
委員	<p>評価の方法は、やはり数字も大事だとは思うが、数字ではなく実際の声であったり、少数派の意見であったり、取り上げるというのは大事だと思う。</p> <p>そもそも、私がこの公募委員に応募したきっかけは、ただの専業主婦で仕事もしてなくて、自分の思いを出す場所がなかったからである。本当に専業主婦と言ったら、社会から孤立しているような存在である。その中で、何か自分ではできないかなと思っていたら、たまたま、私はこの公募を見つけて応募して、この場にいるから発言できるが、できないお母さんたちはたくさんいる。</p> <p>そもそも、子どもプランを知らないお母さんがほとんどである。「そんなのあるの?」というお母さんがいて、「北九州でそんなことしているの?」というお母さんが現実だと思うので、子どもたちもそうなのだが、まず、そういうお母さんたちが本当に必要としているところが一番大事なのではないかなと思う。もちろん、数字として評価するのも大事だが、そちらばかりに目を向けるのではなくて、もっと数に出てこないところや、数は少ないが、本当に必要としている人の声を、常にあると意識してもらいたい。</p>
会長	<p>皆さんからたくさん意見をいただいた。これらを踏まえて、また、事務局</p>

会 議 録 (案)

	<p>で検討してもらいたいと思うが、評価区分のところの「大変順調」「順調」「やや遅れ」「遅れ」に關しての表現である。</p> <p>事前に私と事務局で話し合っただけのことを、また繰り返すことになるが、実はこの表記がマッチする事業もあればマッチしない事業もある。かなり事業の性格に左右されるところがある。では、その事業の性格に左右されるから、幾つかのパターンを想定したが、またそれはそれで、煩雑と言うか、かなりややこしくなっていて、全体の流れや全体がこう見えない。できれば最大公約数的な表現型があればいいが、残念ながらそこが見当たらないというのが現状である。</p> <p>そこで、この表記に關しては、大体ベースとしてはこの形となった。その表現とか評価によって、文言、文章などを付け加えるところをきちんと設けるといふことで、検討するということに對して対応させていただきたいと思う。</p> <p>パターンを想定するとやはりかなりある。結局、訳が分からなくなった。表現としては「大変順調」「順調」…という形だが、進捗状況で、この順調、遅れというのは、急に感情が入ってしまって難しいのかもしれない。もちろん、まだ時間があるので、これよりももっと、よりニュートラルな、感情が入らないような表現型があれば、もちろん適切とするが、もし難しければ……人間の知恵も限界があるので、難しければ、最大限であって、あるいは委員の方々からこういう表現でいいのではないかというような意見なども知った上で、それでも駄目であれば、それプラス、先ほどあったように数値だけでなく、数値と実態に乖離が生じる場合には、必ずそれを補足するような文章も付け加えるということに、事務局に検討していただく。そういうことで、一応、会長、預かりということにしたい。より適切な表記があれば教えてもらいたい。</p>
事務局	<p>はい。先ほど、委員とやりとりさせていただいたので、その形で検討したいと思う。検討ということ、ため息をつかれるが、もし、何かあれば、よろしいですか。</p>
委員	<p>委員、「遅れ」というイメージはどういう風を感じるか。</p>
委員	<p>遅れは良くない。</p>
委員	<p>そうだろう。「遅れ」イコール「良くない」というイメージがどうしてもある。でも、遅れていていい、ということだってある。むしろ遅らせてもらいたいというものもある。だから、遅れているように見えるが、急に上がるかともいふ、その期待値の場合もあると思う。正しく評価するとか、透明性とか、バランスを取るとか言っているときに、マイナスのイメージがある言葉を使うのはどうか。やはり引っ掛かる。</p> <p>それで、もっと言えば、留意点のところも言葉が足りない。これは「遅れていい」とか「進んでいるけれども必要枠」という部分を書く場をきちんと設け</p>

会 議 録 (案)

	<p>ないと評価にはならない気がする。言葉が見つからないのに言うなと言われるかもしれないが、「遅れ」とか「やや遅れ」というのは、やはりあまり評価としては、しつこいが、マイナスとしかない。数値が100%いったら、「大変順調」と書いてあるけれども、「いや、そうですか」というのが評価ではないか。</p> <p>しつこいかもしれないが、もう1回言わせてもらいたい。やはり、「大変順調」「順調」はいい。「お子さんは、ちゃんと育てている。順調である」と言われたらうれしいと思う。でも、「お子さんは、遅れている」と言われたら、「大変！」となる。やはりマイナスのイメージなんだと思う。「大変！」となったときに、その数値目標に「行け！」となっていていいのかという問題と、緩やかでいいのではないか、そんなに急激に右肩上がりが必要なのか。実際、それは遅れているように見えても、遅れていてもいいというのに、ここにはフォローがない。</p> <p>例えばお子さんの発達に遅れがあったとしても、「遅れている」とは言わない。ここは、もう少し伸びしろがあるからというような言い方をすると同様に、やはり遅れはマイナスだと思う。順調はプラス。それが本当に、透明性のある評価なのかというのは、本当にしつこいけれども聞きたい。</p> <p>何か適切なそういう表記が見つければ、それは変えられる。でも、見つからなければ、このままになってしまう。結局、代替案が見つければOK。</p> <p>もっと留意点が増えることはありだと思う。留意点の中の文言で、「今は満たしていないがいい」という場合は、書いていいとなっているが、「満たしているが悪い」というのも書いていいし、満たすであろうことも書いていい。ここは緩やかでいいもいいと思う。</p> <p>単純に達成、未達成とかでは駄目なのか。</p> <p>未達成はどう感じるか。達成しなければならないという気がするのでは。</p> <p>未達成は、あくまで目標に対する未達成。では駄目なのか。</p> <p>「まだだ」とは書けない。</p> <p>少なくとも、もう適切な言葉が見つからなくて、これに、もう万が一なっただとしても留意点には、必ず、今、皆さんが悶々としているようなことや、私も強調しているようなことが入る。会長が入れてくれるのか。</p> <p>それはもう、文章は付け加える。付記事項で、そういうことは、スペースは作るということなので。</p>
会長	
委員	
会長	

会 議 録 (案)

委員	それはかなり重きを置く。「良い」「悪い」「もう少し」ではなくて。
事務局	個人的な意見だが、例えば、表のこの欄（活動指標の評価欄）をなくしてもいいのではないかと。留意点だけで表現していくという手法。「A」「B」「C」「D」だけになるが、資料1の裏面の、表でもって、役所の人間の勤務評定を作っているようなものはしているが、それもちょっと一案ではないかと思う。
委員	高齢者の場合は、モニタリング評価というのをするが、その中の評価の仕方が、「要継続」「継続」「要検討」「中止」になっている。
会長	最後、事務局が言ったように、日本語表記にすると、そこに感情的な価値観の判断が入ってしまうというのであれば、もう「A」「B」「C」「D」とニュートラルな、いわゆる進捗状況の程度ということで示すということが無難なのかもしれない。また事務局で検討してもらい、次回の時に報告してもらいたいと思う。
	【閉会】 16:52